

# 知的障害児教育におけるリトミックに関する研究 - 中学部における音楽の授業を対象とした調査と教材の検討 -

長谷川 徹

## I 問題

盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領（平成 11 年 3 月）解説では、知的障害者を教育する養護学校中学部の音楽科については、内容を「鑑賞」「身体表現」「器楽」「歌唱」の 4 つの観点から示している。

これらの観点のうち「身体表現」は、知能面だけでなく身体面においても、発達の遅れや偏りがみられる生徒にとって、大きな成果が期待できるものの一つである（文部科学省，2002）。

障害児を対象として「音楽による教育」の一方法としてリトミックが取り上げられている（笹井・神原，1994）。このリトミックは、身体表現のねらいを効果的に達成できる方法である。リトミックは、エミール・ジャック＝ダルクローズ（以下ダルクローズ）によって考案された音楽教育である。リズム運動，ソルフェージュ，即興演奏の三部門からなり，感覚，身体を通して音楽を感じ，表現し，集中力を養い，精神と身体の調和を図ることをねらいとしている。

知的障害児を対象とした特別支援学校での音楽活動は単に音楽の授業枠で行うのではなく，非常に多様な授業枠で行われている（今井，1985；丹羽・大谷，1997）。リトミックについても，養護学校の「音楽」「リトミック」「自立活動」「体育」等の授業において，各教科・領域の特質に合わせて導入されている（藤原，2002）。

音楽の授業においてリトミックを展開するときに単独の教材を扱うことは少なく，いくつかの教材を組み合わせることが予想される。そのような音楽の授業の中でリトミックを展開するときに，どのようなねらいで，どのような教材を組み合わせるのか，また，教材そのものをどんな楽器でどのように提示しているのかについての文献は少ない。

知的障害教育の音楽の授業において，リトミックがどのような現状で行われているかを明らかにするとともに，それらを整理し，教材や展開例について検討する必要がある。

## II 目的

知的障害教育を対象とした特別支援学校中学部における音楽の授業を調査し，リトミックの現状について明らかにするとともに，それらの結果を整理し，知的障害児の音楽の授業において，リトミックを進めるための教材や展開例について検討することを目的とする。

## III 方法

### 1 研究①質問紙調査

知的障害を対象とした特別支援学校中学部における「音楽の授業について」「身体表現について」「リトミックについて」を調査するために，調査項目を決定し，2007 年 6 月に本調査を実施した。対象は，全国の知的障害教育を対象とした特別支援学校中学部音楽担当教諭計 454 名とし，質問紙を郵送により実施した。回収率は 59.9%であった。

### 2 研究②教材の検討

調査の結果，「工夫している点」と「苦勞している点」から，教材と展開例を示した。そして，N 県の知的障害教育を対象とした特別支援学校中学部の音楽の授業のリトミック場面において実践し，ビデオ記録による分析を行い，教師の意見からフィードバックを得て，教材と展開例のよい点，改善すべき点，展開上の留意点をまとめた。

## IV 結果

### 1 調査の結果

音楽の授業は，272 名中 262 名が行っていると答えた。「身体表現」についても，そのうち 251 名が行っていた。音楽の授業におけるリトミックについては，140 名が「行っている」と答えた。主に使用する伴奏楽器としてはピアノ（キーボー

ド) が最も多く 120 名、次いで CD・カセットテープ等が 61 名だった。また、リトミックの活動では「リズムに合わせて歩く活動」が最も多く、そのうち多くの回答者が「音楽に合わせて動き出したり止まったりする活動」と組み合わせて行っていた (図 1)。

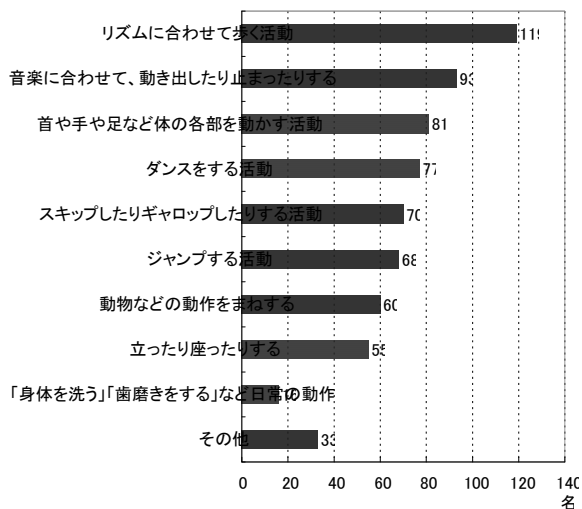


図1 リトミックで行っている活動

リトミックを行う際に工夫していることとして、「選曲について」をあげた人が 112 名だった (図 2)。リトミックを行う際に苦労していること、悩んでいることとしては、「選曲について」が 49 名、「活動場所について」が 48 名だった。(図 3)。

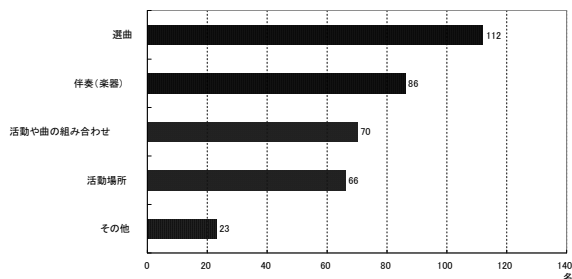


図2 リトミックを行う際に工夫している点

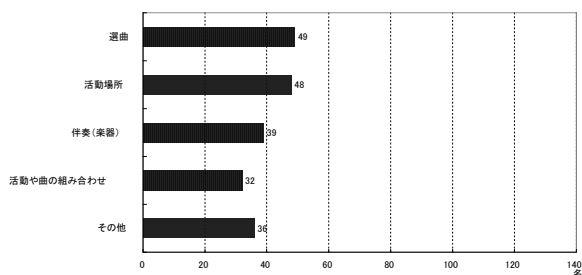


図3 リトミックを行う際に苦労している点、悩んでいる点

## 2 教材の検討

調査の結果より、リトミックを行う際に工夫していること、苦労していること、悩んでいることから教材や展開の具体例を検討する上で重要と考える視点を「動きやすさ、わかりやすさ」「曲と活動の組み合わせ、動と静・メリハリの工夫」「活動の継続期間とマンネリ化」「教材の提示と教師の支援」「教師の人数と伴奏」に整理した。これらの点と、N 県の A 養護学校中学部音楽 A グループの授業と生徒の実態をもとに、教材の組み合わせと展開例を検討した。

まず、動きのイメージの持ちやすさという点から、リトミックの活動全体のテーマを「遊園地にいこう!」と設定し、遊園地に出かけて、乗り物に乗って帰ってくるというストーリー性をもたせた。次に、活動の組み合わせとして、「歩く」「歩く・走る・止まる」「回転する」「床に寝て音楽を聴く」「立ち上がる」「ギャロップする」「手をつないで輪になって回る(強弱変化で方向転換する)」「ダンスをする」「足を高くあげて歩く」とし、動きに動・静のメリハリを持たせた。また、それぞれの活動にあった動きやすく、動きをイメージしやすい曲想の曲を選定した。より動きのイメージが持ちやすいように、遊園地のイラストと活動ごとの遊具の絵カードを用意し、提示しながら、教材を展開した。伴奏は、CD とキーボードの両方を用い、それぞれの長所を生かした使い方を工夫した。

## V 考察

調査の結果、音楽の授業については、ほとんどの学校で行われており、特別支援学校中学部での中心的な音楽活動の場は音楽の授業であることが明らかとなった。音楽の授業の集団の大きさに見合う活動場所が十分に確保できないという現状もうかがえた。身体表現については、音楽の授業を行っている回答者のほとんどが行っていた。音楽の授業においては、リトミックは身体表現の活動として行われ、身体表現をとおして音楽のねらいを達成するための一方法として取り入れられていた。

音楽の授業でリトミックを行っていないという回答者もほぼ半数であったが、教室の広さやリトミックに関する情報や知識などの条件が整えば行ってもよいと考えている回答者も少なくなかった。

音楽の授業においてリトミックを行う際には、生徒の実態に応じて活動内容が工夫されていたが、「リズムに合わせて歩く活動」を中心に、生徒の実態に合わせて他の活動が組み合わせられて行われていることが伺えた。

リトミックにおいて使用する楽器は、ピアノが中心で、授業の展開によって他の楽器も合わせて使用されていた。音楽の授業においてリトミックを行うか行わないかについては、指導者のリトミックに対する考え方や音楽の授業を行う環境なども影響しているのではないかと推測できた。

それぞれの活動によく使用する曲は、活動によってリズムや拍子、テンポなどに傾向があったが、クラシックやポップス、アニメソングや童謡、教材集の曲など、さまざまなジャンルの曲が使われていた。リズムに合わせて歩く活動以外では、即興が最も多かった。

リトミックを行う際に工夫していること、苦労している点、悩んでいることを分類し、分析を行った。選曲、伴奏、活動や曲の組み合わせ、活動場所等について、様々な工夫や苦労がされていたが、それらのなかから、特に教材の検討に重要な視点について、「動きやすさ、わかりやすさ」「動機づけ、動と静・メリハリの工夫」「活動の継続期間とマンネリ化」「教材の提示と教師の支援」「教師の人数と伴奏」「活動場所に合わせた活動内容」に整理した。

これらの視点と、リトミックでよく使用する曲の傾向をもとに、教材と展開の具体例を示し、A 養護学校中学部で授業を行った。

「動機づけ、動と静・メリハリの工夫」では、リトミック全体のテーマを設定し、ストーリー性を持たせて活動を組み合わせることによって、主体的な生徒の動きを引き出すことができた。また、活動全体の中間に静の活動を配置し、生徒が一旦

気持ちを落ち着けて次の活動に移ることができた。メリハリのついた組み合わせとなった。このようにメリハリのある構成は、生徒にとって「動きやすさ、わかりやすさ」につながり、音を意識して動こうとする生徒の様子が多くみられるようになった。また、伴奏については、CD とピアノを併用した活動の展開を提案した。「教材の提示と教師の支援」では、活動のテーマや動きにあった絵や絵カードの使用や活動前の教師の模範によって生徒に視覚的に動きのイメージを伝えることができ、積極的な動きを引き出すことにつながった。

「活動の継続期間とマンネリ化」については、活動を継続しながらマンネリ化を防ぐ一方法として活動内容の組み合わせや順番を変えることを提案した。「活動場所に合わせた活動内容」については、活動場所の使い方の一例を実践した。

調査と教材の検討を通して、知的障害教育の音楽の授業におけるリトミックでは、動きがイメージしやすい教材提示の必要性や、繰り返し学習することの大切さ、活動場所確保のむずかしさなどから、展開においての配慮に工夫が必要であることが分かった。教材の継続期間とマンネリ化も大きな課題であり、活動を継続しながら、活動のテーマや組み合わせを少しずつ変化させていくななどマンネリを防ぐための工夫が必要である。生徒一人一人の実態に十分に対応できる動きのバリエーションの検討の課題、教師のリトミックについての情報の不足の問題も浮かび上がった。

## 文献

藤原志帆(2002) 養護学校におけるリトミックに関する一考察—知的障害児を対象とした実践報告の分析を通して。

教育学研究紀要(中国四国教育学会), 48(2), 222-227.

望月勝久・山浦達雄・齋藤一雄・野研治(1982) イラストでわかる障害児のリトミック指導. 黎明書房.

齋藤一雄(1998) 知的障害児とリトミックの効果. 日本ダルクローズ音楽研究会創立25周年記念研究大会, ラウンドテーブルⅢ「リトミックと障害児教育」資料.

齋藤加代子(1985) 精神薄弱児のリトミック指導. 国立音楽大学研修報告書.